

港区立港南中学校

令和 5 年度 授業改善推進プラン

	育成を目指す 資質・能力	全国学力・学習状況調査、学習評価及び定期 考査等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制 の工夫
国語	<ul style="list-style-type: none"> 言葉に関する基礎的な知識や技能を身に付けるとともに、言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えを伝え合ったりする力を養う。 社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付け、生活に生かしたり親しんだりする態度を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> 1,2年生は、学習状況調査の結果から国語の授業が「よく分かる」「どちらかといえば分かる」と答えている生徒の割合が94.5%である。授業中に学習内容を理解することができているので、その学習内容を復習して身に付けることが必要である。また、「確実にできるようになるまで繰り返し練習している」という質問に対して「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答している生徒がやや少ないので、この点を改善することで知識の定着を図ることができると思う。 3年生は全国学力・学習状況調査の結果において、「知識・技能」が0.3ポイント、「思考・判断・表現」が1.8ポイント上回っていたが、領域の結果では「書くこと」が1.5ポイント、「読むこと」が2.6ポイント下回っていた。自分の考えを、必要な情報を使って書いたり、登場人物の心情を表現から読み取ったりすることなどに課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「教師からの説明」「理解確認」「理解深化」「自己評価」の4つの段階からなる「教えて考えさせる授業」を実践し、ペア活動やグループ活動等も取り入れながら授業を進める。 知識として定着するように、学んだことを繰り返し確認ができるようにする。 生徒同士で話し合いや練習を積み重ねることで、課題を解決するための筋道を考えたり、他の人の意見を参考に自分の意見をまとめたりする活動を充実させる。 授業の振り返りシートを用いて振り返りを行う際、既習事項との関連や学んだことをどのように自分の活動に結び付けるかなどを繰り返し考えさせる。

	育成を目指す 資質・能力	学習評価及び定期考査等の 結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制 の工夫
社会	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的な知識・技能の定着を目指す。 グラフや図などの資料を適切に読み取り、読み取った情報をもとに考える資質・能力の育成を目指す。 自らが学習課題を把握し、その解決に向けて粘り強く取り組むことのできる資質・能力の育成を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 1年生は、小テスト等を実施した結果、意欲的に反復学習をするようになり、基礎的な知識・技能が定着できている生徒が多い。一方で、既習事項を活用して資料を読み取り、まとめることが課題である。 2年生は、前年度からの反復学習の習慣により基礎的な知識・技能が定着している生徒が多い。また、地図や統計資料など1つの資料から情報を読み取れる生徒が前年度より増加している。一方で、複数の資料から情報を適切に選択し、読み取って活用する能力に課題がある。 3年生は、言語化能力が高く、自分の考えを发表或し、文章に書き出すことが得意な生徒が多い。そのため、記述式の問題にも意欲的に取り組み、無回答のままにする生徒は少ない。一方で、複数の資料から情報を適切に読み取ることや社会的事象を多面的・多角的に捉え考えることが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 振り返りシートや小テストを実施し、基礎的な知識・技能の定着を図る。 写真や地図、グラフなどの資料を多く提示し、資料から何が読み取れるのかを考えさせる活動を取り入れる。また、ペアワークやグループワークを通して、読み取った情報を他者に説明するなどの対話的な活動を多く取り入れる。 ICTの活用やワークシート等の教材の工夫によって、分かる授業を実践していく。また、色チョークで重要度を可視化するなどユニバーサルデザインの視点を取り入れる。 「教えて考えさせる授業」のなかの「理解深化」において、生徒が自分事として考えることのできる、主体的かつ深い学びに繋がる課題設定を行う。

数学	育成を目指す 資質・能力	全国学力・学力状況調査、学習評価及び定期考査等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> 単元の基礎・基本となる事項を理解し、知識として確実な定着を図る態度を育成する。 事象の変化や対応の特徴を見だし、図や表、式、グラフを相互に関連付けて表現できる力を育成する。 論理的に考え、手順をしっかりとて相手に説明できる力を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 1年生は基本的な計算方法は授業内で理解できている。少し複雑な操作を必要とする計算になると、正答できない生徒が増えることに課題がある。 2年生は基礎的な知識・理解や技能は、概ね定着しつつあるが、数学的な思考力・判断力・表現力の習熟に課題がある。 3年生は全国学力・学習状況調査の結果において、知識・技能と思考・判断・表現が全国平均と同等であった。データの活用の領域では全国平均より4.4ポイント下回った。1年次に学習する「データの分析と活用」の基礎的な知識の定着に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 「教師からの説明」、「理解確認」、「理解深化」、「自己評価」の4つ段階からなる「教えて考えさせる授業」を実践し、基礎的な知識・技能を身に付け、課題に対して自分の考えを相手に伝えながら相談し、解決に向かう学び合いの活動を取り入れる。 毎時間授業の始めに、計算ドリル演習を行い、基礎学力の定着を図る。 予習をすることで、ある程度の予備知識を持って授業で学習しやすい状態をつくり、「予習で分からなかった疑問点」をもって授業に臨ませる。 習熟度別少人数授業を展開し、与えられた課題を、図や表、式、グラフを活用し、筋道を立てて考えたり、演繹的に説明したりする活動を充実する。

理科	育成を目指す 資質・能力	学習評価及び定期考査等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> 課題の発見、探究、解決の過程を通して、粘り強く学習活動に取り組むことのできる資質・能力の育成を目指す。 得点力が低く、理科が得意ではないと回答する生徒が多いので、得点力の向上を目指し、知識・技能に関する資質・能力の育成を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 1年生は自然の事物現象について、原理や理由を口頭や記述で説明することが課題である。この課題を解決するため、グループワーク等を通して説明させる機会を増やす必要がある。 2年生は実験や観察の結果をまとめたり、考察したりすることに課題がある。また、振り返り等で生徒の理解度を確認し、復習を強化する必要がある。 3年生はデータを読み取り、それを活用する能力に課題がある。実験でデータを共有させ、そのデータから1つの法則を見つけるような探究させる授業を積極的に行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 主体的・対話的な深い学びの実現に向けて、「教師からの説明」、「理解確認」、「理解深化」、「自己評価」の4つ段階からなる「教えて考えさせる授業」を実践し、多くの生徒が理科の学習を通して達成感・充実感が味わえることを目指す。 学習内容の定着を図るため、単元終了後に小テストを行う。 データの読み取りや活用に関する内容はグループワークを充実させ、教え合い授業を重点的に取り入れ、理解している生徒を先生に抜擢し、理解不足の生徒に教えることで苦手意識の克服につなげる。

音楽	育成を目指す 資質・能力	学習評価及び定期考査等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的な技能の向上や創意工夫して表現する力、他者と協働しながら演奏表現を工夫する力を養う。 曲や演奏の楽しさを見出す力、作曲家や演奏家の思いや意図を感受しながら鑑賞する力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> 1年生は自分が考えたことを他者に伝える能力が課題であるといえる。授業において、互いに教え合う活動が必要である。 2年生はメモを取りながら学習を進めることや自分の考えを的確に他者に伝えることが課題であるといえる。授業においてもメモを取りながら話しを聞くことや、自分の思いや意図を他者に伝えることが必要である。 3年生は定期考査や実技テスト・「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の結果において、他者と相談しながら考えを深めることは身につけているが、他者と協働しながら演奏することが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 表現活動の際には、発声や基礎練習を行い、基礎的な技能の向上を図る。 「教えて考えさせる授業」を実践し、基礎的な知識・技能を身に付け、高度な能力の育成を図る。また学力が高い生徒や先取り学習している生徒でも達成感・充実感が味わえる授業づくりを目指す。 デジタル教材や動画等の資料、先生の説明等でメモを取る活動を取り入れる。 他者と協働しながらペア・グループでの表現活動・話し合い・教え合いの活動を充実させる。

	育成を目指す 資質・能力	学習評価及び定期考査等の 結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制 の工夫
美術	<ul style="list-style-type: none"> ・表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、多様な価値観を形成し、表現方法を忍耐強く自己努力し、創意工夫することで、創造的に表すことができる能力を養う。 ・美術文化と豊かに関わる資質・能力を養い、造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きについて豊かに発想や構想ができる能力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生は、対象や事象を造形的な視点で捉え、生徒の主体的・自律的な学習態度を育み、コミュニケーションを通して造形活動を幅広く積んでいくことが必要である。 ・2年生は、美術や美術文化を理解し集中して表現活動に取り組む姿勢はできているが、表現の意図と工夫、美術の働きについて考え、見方や感じ方を深めていく経験が必要である。 ・3年生は、美術や美術文化に対する知識や理解力を発揮し表現活動に取り組むことはできているが、生み出した主題を追究し、さらに社会的広い視点で表現を発展させて社会生活に生かせる創造性を培うことが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「教師からの説明」、「理解確認」、「理解深化」、「自己評価」の4段階からなる「教えて考えさせる授業」を実践し、基礎的な知識・技能を身に付けて表現活動に取り組み、多角的多面的な視点で創造性を発揮し表現することにより、自己の達成感・充実感が味わえるような授業を目指す。 ・他者と協働しながら活動をする際には、自分の考えを他者に的確に伝え、クラス全体の表現活動がより充実するような話し合い活動を行う。 ・自然や身の回りの事物や環境から社会的にも幅広く表現の対象を捉え、美術が生活や社会において重要な役割を果たしていることを実感できるようにする。

	育成を目指す 資質・能力	新体力テスト、学習評価及び 定期考査等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制 の工夫
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習の視点に立ち、運動への親和的態度を養う。 ・運動技能の向上だけでなく、する・みる・支えるの観点から運動を実施する能力の育成を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新体力テストの結果から本校の課題は全身持久力(20m シャトルラン、長距離走)、スピード(50m 走)の二つの項目にあり、走ることが苦手な生徒が多い。 ・1年生は運動に対して消極的な一面があり、積極的に取り組むために運動に対して親和的態度を身に付ける必要がある。 ・2年生は積極的に活動に取り組む。課題として、自分の考えを他者に伝えたり、話し合い活動の中で、課題解決方法を思考したりすることが苦手な生徒が多い。 ・3年生は積極的に運動に取り組む。考えを他者に伝えたり、話し合い活動を積極的に行う一方で、他者と協力したり、フェアにスポーツに取り組む姿勢を身に付けることが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新体力テストの結果を受けて、「走る」ことを苦手としている生徒が多い。その根本には「運動嫌い」、「体を動かすことが嫌」という理由が挙げられる。その理由を取り除くために、授業の初めに「走る」活動を多く取り組み、苦手意識の払拭に努める。 ・課題解決能力を身に付けさせるために、生徒同士で話し合い活動の時間を設けて、協働的学習を行う。課題を解決するためには自分自身の理解を高めることも必要だが、教え合い活動も有効である。授業の中で生徒同士の教えあい活動の充実を図る。

	育成を目指す 資質・能力	学習評価及び定期考査等の 結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制 の工夫
技術・家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・互いの意見交換を大切にし、情報共有する中で、創意・工夫ある作品作りをさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生は、創意工夫する能力を生かし、お互いに情報共有する中で技能を磨き知識を高める。 ・2年生は、柔軟に考えを深められるよう主体的に学ぶ姿勢を養う。 ・3年生は、主体的に学習する中で、生活に役立つ技能を身に付け、知識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ものづくりを通して、創造力を高めさせ、意欲的に取り組めるよう個別に対応していきたい。 ・多種多様な情報収集する中で、正しい判断・処理を積み重ね、分かりやすく発信ができるように声掛けをする。 ・iPad・PCを活用できるように声掛けをする。

外国語(英語・国際)	育成を目指す 資質・能力	全国学力・学習状況調査、学習評価及び定期 考査等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制 の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的な知識・技能の定着をめざす。 読解力の向上と読み取った情報をもとに考える資質能力の育成を目指す。 主体的・対話的に学習に取り組み、自らの学習の課題を把握し、その解決に向けて粘り強く取り組むことのできる資質・能力の育成を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 1年生は、学習評価の結果から「よくわかる」「どちらかといえばわかる」と84.2%の生徒が回答している。一方で、基礎的な表現について正確に書くことが苦手な生徒がいる。 2年生は、学習評価の結果から「よくわかる」「どちらかといえばわかる」と75.9%の生徒が回答している。読み取った情報を他者に伝えることについては得意である。一方で、基礎的な知識・技能の定着が不十分な生徒がいる。 3年生は、学習評価の結果から「よくわかる」「どちらかといえばわかる」と76.9%の生徒が回答している。全国学力学習状況調査では、「書くこと」については、都平均と比較して、+13点であった。自分の考えを文章に書いたりすることに優れている生徒が多い。今後の課題としては、長文等の読解スピードをさらに身に付ける必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 「教えて考えさせる授業」を実践し、学力の低い生徒でも基礎的な知識・技能を習得し、自らの学習課題を把握し、高度な課題を取り組むことができるようにする。また、学力が高い生徒は、基礎的な知識・技能を習得し、それらを活用する課題に取り組み、主体的かつ深い学びにつながるようにする。 学習内容の定着をより深く図るために、引き続き小テストを実施する。定期考査では、基本文や重要表現を理解しているか確認し、定着を図る。 読み取った情報や内容を他の生徒に説明をする等の活動及び自分の意見や考えを伝える活動をさらに充実させる。 長文等の読解スピードをさらに身に付けるために、多読の授業を実施する。

特別の教科 道徳	育成を目指す 資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制 の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> かけがえのない命の尊さに目覚め、自他を敬愛する態度を育成し、友達のよさを認める心、他の人々に対する感謝の心、人の痛みのわかる思いやりの心を育てる 情報リテラシー及び情報モラルや国際感覚を身に付け、多様性を受け入れる心を育み、グローバル社会を生き抜くことのできる資質を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の経験を振り返り、道徳的価値について考えたことを適切に表現できる生徒と、そうでない生徒の差がある。 ねらいとした価値について自分たちの生活に照らし合わせて考えられる生徒もいるが、実生活の行動に生かしていない場面が見られるため、実践力を育てていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 議論する活動をさらに取り入れ、互いの価値観や考え方を尊重し合えるような雰囲気醸成を図る。 人間としての生き方について自覚を深め、ともによりよく生きようとする意欲や態度を育てるために、題材の内容について話し合う活動を設定し、自分のこととして振り返る時間を確保する。 題材の内容だけでなくそこからさらに様々な価値や考え方を教師から提供し、多様な考え方を知り得る機会を増やす。

特別活動	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> 集団や社会の一員として、自ら進んで責任を果たす態度を養う。 互いの人格を尊重し、協力する態度を養う。 家庭や社会の中で、望ましい人間関係を築く力を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活体験の不足や人間関係の希薄化、集団のために働く意欲や生活上の諸問題を話し合っ解決する力の不足、規範意識の低下などが表面化している。 好ましい人間関係を築けないことや、望ましい集団活動を通じた社会性の育成が不十分な状況が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の自主性や実行力を高めるために、判断や選択、意思決定など、生徒自らが考え、責任感を高める機会や場면을積極的に設定する。 チャンスを逃さない褒める場面を作り、生徒の自己肯定感及び自主的・実践的な態度を育成する指導を積み重ねる。 学校行事においては、係生徒を中心とした生徒同士の活動の活発化を図り、生徒同士の好ましい人間関係の構築を図る。その際、教師はアンテナを高くした見守りを不断に行い、併せていじめ等の未然防止を図る。

総合的な学習の時間	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> ・「人権」「環境」「防災」「勤労」等をテーマに、発達の段階に応じた系統性のある活動を通して、自ら課題を設定し、学び、解決する力を育成する。 ・キャリア教育を充実させ、主体的に進路を選択し、実現に向けて努力する生徒を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のよさや課題について知っているものの、その知識を自己の行動につなげて考える生徒は多くない。自らの行動が社会貢献につながる意識がもてるようにしたい。 ・キャリア教育の一貫として行われている様々な体験活動が、体験のみに終始してしまい、自分の生き方を考える機会となっていない生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人材や機関等を有効に活用し、講演会や訪問学習、体験学習等を実施し、協働することを通して自らの課題を実感し、どのように解決していくかを考え、話し合う活動を多く設定する。 ・地域の問題に関心をもち、地域に住む人間の責任と役割を理解し、ものを大切にする心を養い、地域貢献のための実践的な態度を身に付けられるように、防災学習やSDGsに関する探究学習に取り組む。 ・マナー講座、職業講話、職場体験等の進路学習を通して、その都度自分の進路や生き方についてキャリアパスポートを活用して考えたり話し合ったりする機会を設ける。

特別支援学級（E組）	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的、基本的な知識や技能を習得し、深く考える態度を育てる。 ・豊かな情操や人間関係を育て、他を重んじ協力する心を養い、自立し、社会に参加する資質を育てる。 ・基本的な生活習慣を養い、体力の向上と心身の健康の保持・増進を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一つのことに主体的に、粘り強く取り組むことに課題のある生徒が多い。 ・興味や関心のない学習課題に対して、自ら取り組む姿勢をもちにくい生徒がいる。 ・他者との言葉によるコミュニケーションが苦手な生徒がいる。 ・感情の起伏をコントロールすることが、時々苦手になる生徒がいる。 ・集団活動に苦手意識があり、困っている生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員が適切な声掛けを行うとともに、一人一人の興味や関心に応じた目標を設定し、学習意欲が持続するよう、教材や教具についても個に応じた工夫を行う。 ・週に2日配置されている言語指導員を活用し、自己理解や他者理解、コミュニケーション能力の向上を目指したソーシャルスキルトレーニングを行う。 ・係や委員会活動などの役割をしっかりと行えるよう、スモールステップで成功体験を積み重ね、自信を付けさせる。